

2023 年度第 2 回音環境運営委員会議事録

記録：佐藤逸人（幹事）

日時：2023 年9月29日（金）17:00～19:00

場所：Zoom を用いたリモート会議

出席者：池上雅之（主査）、小柳慎一郎（幹事）、佐藤逸人（幹事）、會田祐、上野佳奈子、川井敬二、奥園健（安田洋介代理）、古賀貴士、坂本慎一、佐久間哲哉、田中学、辻村壮平、富田隆太、豊田政弘、中澤真司、濱田幸雄、平光厚雄、星和磨（敬称略）

欠席者：佐藤洋、羽入敏樹、安田洋介（敬称略）

提出資料：

- 資料2 2023年度第1回音環境運営委員会__議事次第
- 資料2-0 2023年度第1回音環境運営委員会議事録(案)
- 資料2-1 20230927環境工学本委員会資料（「元資料」フォルダ）
- 資料2-2-1 AIJ2023若手優秀発表審査結果
- 資料2-2-2 AIJ音環境運営委員会_中長期的な課題対応メモ
- 資料2-2-3 20231020大賞_功績理由書功績概要_橘秀樹先生
- 資料2-2-4 実用的計算方法WG_音環境実用計算_刊行方針・目次
- 資料2-2-5 子どもWG_シンポ構成案230906
- 資料2-2-6 集合住宅WGシンポの資料
- 資料2-3 小委員会WG活動報告入力シート

1) 前回議事録の確認

- ・ 原案通り承認された。（資料 No. 2-0）

2) 環境工学本委員会の報告（資料 No. 2-1）

- ・ 2023年9月27日に開催された環境工学本委員会について池上主査から報告があった。
 - 竹中育英会研究助成金：環境工学で3名。1名は音環境。
 - 建築学会大会における代理発表：電磁環境分野の特例として認めて欲しいという審議があったが否決された。
 - 2024年度建築学会大賞業績候補：音環境運営委員会から橘先生を推薦し、業績を口頭で説明した。現時点では橘先生のみ。
 - 2024年度予算配分：前年度実績で6割、残りの4割は運営委員会の活動状況に応じて配分する。例年通りに活動すれば大きな問題はない。
 - AIJES著作者人格権不行使に関する同意書：主に改訂時のトラブルを避ける目的で、AIJES執筆前に執筆者は署名・押印することが可決された。

3) 審議事項

- ・ メール審議済みの案件について池上主査から報告があった。
 - 大会発表における代理発表
 - ◇ メール審議で否決（7/11）。
 - 大会発表における録画再生による発表
 - ◇ メール審議で可決（7/11）。当人登壇が前提。
 - ◇ 環境工学本委員会でも説明したが、環境工学全体として認めるという話にはならなかった。
 - ◇ 現時点では音環境運営委員会のみでの取り決め。
 - 所蔵資料のデジタル化の候補
 - ◇ 要望なしで学会事務局に回答した。
 - 環境基準作成小委員会に提出する吸音設計AIJESの概要について

- ◇ 9/1開催の環境基準作成小委員会で承認された。その後当該WGにて調整の結果、1年掛けてさらに煮詰めることとした。（10/1に室内音響小委の上野主査から環境工学本委員会に対して、刊行小委設立延期を依頼し承認された。）
 - 環境基準作成小委員会に提出する集合住宅AIJESの概要について
 - ◇ 9/1開催の環境基準作成小委員会で承認された。
- ・ 若手優秀発表の審査結果（資料 No. 2-2-1）
 - 採点結果に基づいて3名を推薦（29名中）することが承認された。
 - あくまで候補なので1割という目安を考慮しつつ多くの学生を推薦すべきという議論があった。
 - 採点の詳細は電子ファイル等の記録として残さない方針が確認された。
- ・ 中長期的な課題対応（資料 No. 2-2-2）
 - 各小委員会・WGの活動報告にて議論。
- ・ 2024年度建築学会大賞業績候補の功績理由書（資料 No. 2-2-3）
 - 功績理由書（橘先生）について原案通りで承認された。
- ・ 実用的計算方法WG（資料 No. 2-2-4）
 - 古賀WG主査から執筆予定の書籍の方針と目次案の説明があった。
 - タイトル案：建物の音環境設計のための実用的計算方法
 - 方針
 - ◇ 建物の音響設計を進める上で必要となる技術計算の基本的な方法を示す。
 - ◇ ターゲットは非専門家。専門家に相談する前の準備ができるようにする。
 - 内容
 - ◇ 必要な物理量の定義と音の様々な伝搬経路におけるレベル減衰の算出方法をまとめる。
 - ◇ 基礎知識の記述は最低限とする。
 - 方針・内容に関する議論
 - ◇ ターゲットに対して、タイトル・コンテンツが専門的過ぎないか。
 - 骨がある内容でなければ、実用に向かない。
 - ◇ タイトルや目次は執筆を進める過程でも変更可能。
 - ◇ 将来的にAIJESに移行することも想定し、学会刊行物としての出版を想定する。
 - ◇ 床衝撃音、ダクト内伝搬はもう少しボリュームがあっても良いのでは。
 - ◇ ユーザーによって参考にするコンテンツが違う。床衝撃音は構造部門、残響は意匠部門、ダクトは設備部門、遮音は非専門家には難しい、屋外騒音は施工部門（現場監督）。
 - ◇ 基礎知識の記述は3章で取り上げるが、あまり詳しく書かない。詳細は他の本で勉強して欲しい。非専門家とはいえある程度の基礎知識を持っている読者を想定する。
 - ◇ 想定する読者については、書籍の冒頭などに記載した方が良い。
- ・ 子どものための音環境WG：シンポジウム開催に向けた検討（資料 No. 2-2-5）
 - 川井WG主査から2024年7月開催予定の第83回音シンポジウムの実施計画について説明があった。
 - 主旨
 - ◇ 学校施設AIJESの改訂版について、特に難聴学級教室・保育空間に関する内容を建築設計、保育・療育、行政などの関係者にわかりやすく説明する。
 - 内容
 - ◇ 改定内容の解説、設計事例の紹介、パネルディスカッション
 - 議論
 - ◇ AIJESの5年ごとの改訂を見据えた改訂内容の掘り起こしも1つの目的になっているか？

→ 今回はその目的は想定していない。

◇ AIJESは5年に1回見直しをすることが求められているが、現行版を世に広める活動期間を考えると5年が長いとは言えない。

- 音環境運営委員会が主催となる。開催に向けて準備を進める方針が承認された。
- 次回音環境運営委員会（11/9）に企画書を提出する。

・ 集合住宅音環境AIJES検討WG：第82回音シンポジウム実施企画書（資料 No. 2-2-6）

- 佐久間WG主査から2024年3月1日開催予定の第82回音シンポジウムの実施計画について説明があった。
- 執筆を進めているAIJESの説明と意見収集が目的。
- 開催することが承認された。
- 11月の環境工学本委員会に企画書を議案として提出する。

・ 2024年度大会オーガナイズドセッションの担当小委員会

- 建築音響測定法小委員会が担当することが承認された。
- 内容の提案を10/10までに音環境運営委員会に提出し、メール審議する。

4) 各小委員会・WGの活動報告(資料 No. 2-3)

① 固体音小委員会（平光）

- ・ 第2回を9月1日に開催。木造建築物の性能のカタログ表記等に関する現状と課題について議論を行った。現状、残響室床開口部の試験結果（L値）をカタログ等で表記している例が散見されている（さらには、バングマシンとボールも混在している。）そのため、空間性能を表すL値を標記することは間違いである旨、学会（学会長、運営委員会等）から発信する必要があるとの意見が挙げられた。ただし、欠席委員から様々な意見が出され、次回も引き続き、議論を行う予定。
- ・ 「中長期的な課題対応」については、特に意見無し。

② 集合住宅の遮音性能評価水準検討小委員会（濱田）

- ・ 当初計画に基づき、遮音設計のための鉄道騒音の測定法について次の検討を行っている。
 - （1）通過本数が室内での発生音のうるささに及ぼす影響に関する聴感実験。
 - （2）深夜等極端に通過本数が少ない場合の最適な測定量に関する検討。
- ・ これらの検討結果をまとめ、10月末に小委員会を開催する予定。
- ・ 中長期的な課題対応は、10月末開催予定の小委員会で議論を行う予定

③ 建築音響測定法小委員会（會田）

- ・ 今年度第2回を7月27日に開催
- ・ 前年度行った音響エネルギー密度実験結果について、6月建音研で発表した結果の報告があった。
- ・ 低音域における室内平均音響エネルギーの測定評価法の提案に向けて議論を行った。実験室、現場での適用メリットの議論のほか、室内計測位置の工夫により適用可能な周波数範囲を広げられる可能性について検討した。
- ・ 今後、数値シミュレーションを用いた測定法のケーススタディを検討する予定。
- ・ 次回10月3日開催予定

④ 室内音響小委員会（上野）

- ・ 第2回を8月26日に開催。今後の活動計画の議論を行った。
- ・ 室内音響啓発コンテンツ企画WG：noteの記事が充実してきており、今後は発信を強化する。
- ・ 吸音設計AIJES：WGは次年度も本小委員会の下に設置する。次回の小委員会で詳細を議論、その後専門家内の意見交換会を実施し、来年度の秋～冬にシンポジウム開催を目指す。
 - 刊行小委員会設置を1年先送りにすることに対して、念のため企画刊行運営委員会の主査に事務局経由で伝えておくこととなった。
 - シンポジウム企画書は10/10までに音環境運営委員会に提出する。

- ・ バリアフリー設計標準への吸音の導入：国交省関係者との懇談会を開催することになった。引き続き働きかけを行う。
 - 室内音響小委員会からスタートしたため吸音がメインになっているが、音環境全体で考えた方が良い話でもあるため、他の小委員会（バリアフリー設計の実務関係者）からも意見をお寄せいただきたい。
- ・ 音環境の重要性の啓発を主目的としたシンポジウム・チュートリアル：24年度に企画案を検討し、25年度に実施を目指す。
- ・ 第3回を11月2日（木）に開催予定。
- ・ 中長期的な課題対応：メール審議した。
 - 意見交換会の開催について検討を進めることには賛同。ただし、負担が増える方向になると継続性の問題があるので、負担が増えないような工夫が必要。

⑤ 音響数値解析小委員会（安田 → 代理出席：奥園）

- ・ 第1回委員会を6月28日（水）に開催。
- ・ 新委員（星野氏（鹿島技研））の紹介と選考経緯の報告。
- ・ 今年度活動計画：伝送系データベースの整備と床衝撃音の数値解析（傘下にWG設置）を主なテーマとする。
- ・ 伝送系データベースの整備：建築における多様な音の伝送系をデータベース化し、可聴化することを目指す。対象、データ収集の上での留意点や分類の軸、フォーマット、webページの構成、管理・公開等について議論。まずは委員にアイデアを持ち寄ってもらうこととなった。
- ・ 床衝撃音の数値解析：測定法や対策の検討へのフィードバック、可聴化による現象理解の促進、解析手法の精度向上等を目指す。実測データを取得し、それらと各種数値解析結果の比較を行う予定。WGにより第1回の実測を終了（8月）。
- ・ 第2回委員会：10月5日（木）開催予定。
- ・ 中長期的な課題対応
 - 「AIJESの継続性に関するリスク回避」：改訂作業準備のための意見交換会を5年に1度設けるのは意義がある。構造分野のような刊行直後の改訂WG立ち上げも望ましい。改訂版に対する意思確認のリマインダ。委員会メンバーに学会刊行物への継続的なデータ提供をお願いするのが良いのでは。刊行物の利用者との意見交換と連携。
 - 「より良い成果を生み出すための適切な小委員構成」：課題の持ち寄りとその共有は賛同できるが、ボランティアワークであるため、エフォート管理が重要。

⑥ 音環境規準検討小委員会（田中）

- ・ 今年度第2回委員会を8/2（水）に開催した。
- ・ 集合住宅音環境AIJES検討WGおよび吸音設計AIJES検討WGの検討状況および内容概要を紹介し、意見交換を行った。両WGとも2024年度に刊行小委員会を設置する方針が示され、当小委員会としては同方針に賛成することを確認した。
- ・ 傘下の集合住宅音環境AIJES検討WGは、8/10（木）および9/11（月）にWG会合を開催した。今回より、目次案の各章担当予定の執筆候補者9名が加わり、DS案の具体化を鋭意進めている。床衝撃音だけでなく外部騒音や設備騒音に関しても論点が示され、議論を行っている。来年3/1にシンポジウムを開催して広く意見を集める予定。また、来年度に刊行小委員会を設置すべく、設置申請書を提出した。
- ・ 第3回委員会は、10月4日（水）に開催予定。
- ・ 傘下のAIJES検討WGは、次回10/27（金）に開催予定。
- ・ 中長期的な課題対応
 - 情報交換の場を設けるのはOK、負担が多くなるのは懸念。深い議論をしたいのであれば、任意参加・公開の形式。
 - 年1回程度の活動報告・意見交換会：小委員会全てが報告すると時間が短くて事務的なものになってしまう。1つか2つの委員会で精一杯では。催し物とするのか、内部的な任意参加のものにするのか。

⑦ 企画・広報 WG（星）

- ・ 今年度の第1回を7月12日に、第2回を8月29日に実施

- ・ アンケート結果を全員で閲覧
 - 回答者55名，延べ144票
 - 突出した企画はなし。15票以上の企画案が6案あり，そこから選ぶ際に悩みそう。
 - 他の委員会や他の団体で同様の試みがされていないか調査し，そこと調整する必要がある。
- ・ 音響の関連団体，および他分野団体の広報・普及関連事業を調べ，我々の判断の一助にすることになった。
- ・ 第3回を11月10日（金）に開催予定。
- ・ 中長期的な課題対応：メール審議。次回WGでも継続議論。
 - 「AIJESの継続性に関するリスク回避」：構造分野のやり方を真似ても良い。定期的に見直すスキームを作ることには賛同。
 - 「より良い成果を生み出すための適切な小委員構成」：定期的な意見交換会の開催には賛同。うまく親委員会が総括して進められると良い。確かに他の小委員会の状況把握はできていない。

⑧ 実用的遮音計算方法WG（古賀）

- ・ 今年度第一回WGを6月20日に、第二回WGを9月4日に開催。
- ・ 執筆方針と目次案について議論した（資料No. 2-2-4参照）。現WGメンバーで執筆を進めていく方針を確認した。
- ・ 次回10月6日開催予定
 - 今回の議論を踏まえて刊行小委員会の設置について再度議論する。

⑨ 子どものための音環境WG（川井）

- ・ 今年度第1回WG会合を7月7日に開催した。
- ・ 第2回会合（主に保育園現場視察）を9月6日に開催した。
 - 今年度のWG活動について（カッコ内は主担当の委員）
 - 1) エイデル研究所出版隔月誌「げんき」連載（船場・野口）
12回の連載「子どもと音環境」が195号（2023.1）から始まった。WGメンバーも多数執筆に参加。連載後にまとめて書籍化が予定されている。
 - 2) 学校施設整備指針に関する勉強会（上野）
文部科学省学校施設整備指針の整備に参画されている先生（上野淳先生を想定）をお迎えし、指針の音環境に関する記述の拡充の経緯を中心に語っていただき、その内容と将来の方向性について懇談する場を設ける。室内音響小委員会の合同企画を想定。
 - 3) AIJ-ES改定における保育施設・特別支援の拡充に関するシンポジウムの準備（川井）
学校施設の音環境AIJ-ES2020改定版について、子どもWGを主催者として、保育施設・特別支援に関する拡充内容を解説・発信するシンポジウムを企画する。2024年度前半を目標とする。”

⑩ 司法支援建築会議（中澤）

- ・ 大会関連行事として9月14日午後、建築紛争フォーラム「近畿地域における建築紛争の現状と課題」を開催。大阪地裁総括判事による基調講演後、調停委員や専門委員、大阪地裁判事より最近の事例報告をいただいた。80名弱の参加があり盛況であった。
- ・ 12月12日13時より建築会館ホールにて第23回司法支援建築会議講演会「建築技術と建築紛争の関係と対応—防火・耐火を中心に」を開催する。司法支援建築会議では、会員および建築技術者、消費者を対象に、建築紛争の実態把握や対処、予防策に対して講演会を実施している。今回の講演会は、主に火災に起因する建築的紛争の切り口で問題、課題を取上げて広く議論を行う。9/29現在、学会HP申込受付準備中。
- ・ 中長期的な課題対応
 - 年1回程度の活動報告・意見交換会はちょっと息切れしてしまいそう。WGであれば活動期間の2年で1回程度で良いのでは。

5) その他

- ・ 特になし

6) 他学会・研究会の予定

- ・ 日本音響学会建築音響研究会
 - 残り5回中3回を対面で開催。11月熊本大学（騒振研と共催）、12月あきた芸術劇場ミルハス、3月関西大学
 - 3月は退職された先生方にお話いただく予定。
- ・ 日本音響学会騒音・振動研究会
 - 10月金沢、11月熊本、12月高知でハイブリッド形式で開催予定。
 - 3月のテーマは道路交通騒音のASJモデル

7) 締め切り関係

10/10 各委員会活動計画の提出

8) 今後の開催予定

第3回：2023年11月09日（木）17:00～19:00

第4回：2024年1月09日（火）17:00～19:00

第5回：2024年3月12日（火）17:00～19:00

以上